iStorage NS300Rk ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用にあたり、ご注意いただきたいことがあります。お手数ですが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。
なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

◇ Index

1) はじめに
2) 装置起動時に関する注意事項
3) システムROMの機能に関する注意事項
4) iLO6の機能に関する注意事項
5) OSに関する注意事項
6) 全般の機能に関する注意事項
A) ファームウェア更新に伴う変更点

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載されているマニュアルを参照してください。
https://www.support.nec.co.jp/

「NEC サポートポータル内検索」より、「3170102831」を入力して検索してください。

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)/エクスプレス通報サービス(MG)に関しては、
ESMPRO 日本語ポータルサイト　https://jpn.nec.com/esmsm/
NEC サポートポータル　https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124
の最新の情報およびバージョンを確認し、適切なソフトウェアを使用してください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。
Web サイトに掲載の内容を確認し、バージョン S8.10-011.02 以降を適用してください。
https://www.support.nec.co.jp/
(「NEC サポートポータル内検索」より、「Starter Pack Version S8.10-011」を検索)

● 本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時などの保守作業において、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバーの組み合わせによっては、保守作業に時間を要する場合があります。

2) 装置起動時に関する注意事項

●「Memory Initialization - Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について

本体装置の電源投入後、まれに「Memory Initialization - Start」のメッセージを表示し、POST 停止することがあります。この現象が発生した場合は、以下の手順で復旧してください。

① 本体装置前面の POWER スイッチ(または、iLO Web インターフェイスにある Power アイコン)を 4 秒以上押し続けて、本体装置の電源をオフにしてください。

② 本体装置前面の POWER スイッチ(または、iLO Web インターフェイスにある Power アイコン)を押して、本体装置が正常に起動することを確認してください。

③ 再度「Memory Initialization - Start」のメッセージで停止する場合は、システムメンテナンススイッチ SW6 にて、システム設定をデフォルトに戻し、正常に起動することを確認してください。(※)
SW6 の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4 システム設定情報の初期化」>「7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。

(※) システム再起動後に Serial Number、Product ID が消失している場合は、メンテナンスガイドの「5. トラブルシューティング」>「5.11 補足事項」>「Serial Number、Product ID が消失してしまった」の項目を参照し、Serial Number、Product ID の復旧を行ってください。

現象発生時の POST メッセージ

```
NEC iStorage System BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
Early system initialization, please wait...
System Chipset initialization
UPI Link initialization - Start
UPI Link initialization - Complete
Early Processor initialization
Memory initialization - Start
```

3) システムROMの機能に関する注意事項

● **UEFI Boot Order Controlの注意事項**

システム ROM バージョン 2.32 適用装置では、UEFI Boot Order Control メニュー(※1)で新たなブートデバイスの有効化、または無効化の設定や保存ができません。
詳細は以下の Web サイトを確認してください。
https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109992

ブートデバイスの起動優先順位を変更する際は、UEFI Boot Order メニュー(※2)にて行ってください。
また、UEFI Boot Order メニューまたは UEFI Boot Order Control メニューに移動するたびに、画面下段にある"Changes Pending"文字列の前に赤い◎が表示されます。
必要に応じて<F10>キーを押下し、設定の保存を行ってください。

(※1) 「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order Control」
(※2) 「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order」

システムROMバージョン2.44ではこの問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

● **RBSUにてEmbedded LOMをDisabledに設定し、設定を保存すると装置がまれにハングアップする**

システムROMバージョン2.60未満の適用装置では、RBSUでEmbedded LOM(※)を[Disabled]に設定しないでください。(出荷時設定は[Auto]です。)
Embedded LOMを[Disabled]に設定し、<F10>キーまたは<F12>キーを押下して「Do you want to save changes?」のポップアップ表示のあと設定を保存すると、装置がまれにハングアップすることがあります。
もし、ハングアップした場合、iLO Webインターフェイスで電源ボタンをクリックし、プルダウンメニューの最下段の「リセット」をクリックすることにより、正常に起動します。
その際、「Embedded LOM 1 > PCIe Device Disable」オプションは[Disabled]に設定されていますので、設定をAutoに戻し、保存してください。

(※)「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > Embedded LOM 1 > PCIe Device Disable」

システムROMバージョン2.60では、この問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

● **View IMLに関する注意事項**

次の条件を満たしたシステムにおいて、システムユーティリティのView IML機能(※1)は使用しないでください。
・ システム ROM バージョン 2.16 未満
かつ
・ RAID コントローラ(N8103-243/245)を搭載 (ファームウェアバージョン 5.61)

上記条件を満たした状態でView IML機能を使用すると、RSoD (Red Screen of Death)が発生します。
そのため、IMLログを表示する場合は、iLO Webインターフェイス(※2)を使用してください。
なお、RSoD(Red Screen of Death)が発生した場合には、システムの復旧のために電源をオフ、オンする必要があります。

(※1) 「System Utilities > Embedded Applications > Integrated Management Log (IML)」
(※2) iLO Webインターフェイス : 「Information > Integrated Management Log」

● **工場出荷時の設定について**

2024年7月8日出荷装置より、下記項目の出荷時設定を変更しています。
System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Processor Options > Processor x2APIC Support : [Auto] → [Force Enabled]

この設定により、高コア数のCPUをご使用時に、オペレーティングシステムをより効率的に実行できるようになります。

2024年7月8日より前に本機を購入されたお客様は、上記設定に変更してください。

4) iLO6の機能に関する注意事項

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

以下に示すタイミングにおいては、iLOの再起動(※1)を行わないでください。
・ サーバー起動からOSの起動完了までの間(POST実行中も含む)。
・ システムユーティリティの操作途中。

(※1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「**システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項**」を参照して操作してください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、予期しない動作を引き起こす可能性があります。
例えば、POST実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェイスの「Information > Overview」ページにおけるUUID、UUID(論理) が正しく表示されない場合があります。また、システムユーティリティの設定変更などの操作の途中でiLOの再起動を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)で「Memory Initialization - Start」のメッセージで停止する場合(※2)や、本体装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報が消失(※3)してしまう場合があります。
もし上記のような不正な表示や動作が発生した場合は、一度本体装置の電源をオフにし、再度オンにしてください。本体装置の電源をオフ／オンしても事象が再発する場合は、事象に応じて注記(※2)または(※3)の手順で復旧してください。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞
・ iLO Webインターフェイスなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
・ UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

(※2) システムメンテナンススイッチ SW6 にて、システム設定をデフォルトに戻し正常に起動することを確認してください。SW6 の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4 システム設定情報の初期化」>「7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。

(※3) メンテナンスガイドの「5. トラブルシューティング」>「5.11補足事項」>「Serial Number、Product IDが消失してしまった」の項目を参照し、Serial Number、Product IDの復旧を行ってください。

● iLO連携グループファームウェアアップデート機能について

本機能を使用する場合は、iLO6ファームウェアバージョン1.52以降であることを確認してください。
iLO6ファームウェアバージョン1.30、または、1.41の環境において、iLO Webインターフェイスの「iLO連携 > グループファームウェアアップデート」ページを開いたとき、以下のような「呼び出しに失敗しました」というメッセージが表示され、機能を利用することができません。

※ 表示されるエラー内容は、将来、変更される可能性があります。

● iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項

iLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、「Security > Access Settings > Update Service > Downgrade Policy」の設定を[Permanently disallow downgrades]に変更しないでください。
[Permanently disallow downgrades]に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、この設定は一度設定すると永続的に保持されるため、「Set to factory defaults」からiLOを出荷時のデフォルト設定に戻しても、その他のiLOの各種インターフェイスや各種ユーティリティから設定変更を試みても、[Permanently disallow downgrades]設定は維持されたままになります。

● iLOの時刻設定について

iLOの時刻設定については、適切な時刻補正を行うために、iLO Webインターフェイスにて SNTPの設定を行い、NTPサーバーを利用した定期的な時刻の自動補正が行える状態で使用することを推奨します。
iLOのSNTPの設定方法については、iLO6ユーザーズガイドを参照してください。

● **iLO Webインターフェイスのセキュリティアイコンに関する注意事項**

RBSUの設定やiLOの設定の内容によって、iLO Webインターフェイスの「Information > Security Dashboard」および画面右上のセキュリティステータスにリスク(赤色)が表示される場合があります。表示されるリスクの内容を確認し、お客様のセキュリティポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。
推奨値などの詳細については、iLO6ユーザーズガイドを参照してください。
ただし、[Require Host Authentication]設定については、本書内の**「iLO Webインターフェイスの[ホスト認証が必要]設定における注意事項」**に記載がありますので、確認してください。

iLOの負荷状況によっては「Information > Security Dashboard」の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Webインターフェイス画面の右上部の”iLOセキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。「Information > Security Dashboard」の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● **iLO Webインターフェイスの「ホスト認証が必要」設定における注意事項**

「Security > Access Settings > iLO」にある「ホスト認証が必要/Require Host Authentication」を[有効]に設定しないでください。

[有効]に設定を行った場合、次に示す状況が発生します。
- ESMPRO/ServerManager のアラートビューアに、「Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出」のメッセージが多数表示されます。
- Starter Pack (Standard Program Package)を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能を利用できません。
- エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- RAID 通報サービス
- サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

● **ネットワークブリッジ構成時のiLO Webインターフェイスのネットワーク情報の表示について**

ネットワークをブリッジ構成で使用する場合、iLO Webインターフェイスの「Information > Network > Physical Network Adapters」に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプターのプロパティで確認してください。

● **RESTful API Errorが発生した場合の対処について**

POST実行中、まれに以下のようなRESTful API Errorが表示され、Integrated Management Log (IML)に記録されることがあります。本イベントが記録された場合、各種監視ソフトウェア(※)からのiLOへのアクセスが正しく行えないことがあるため、iLOの再起動を実施してください。

(※) ESMPRO/ServerAgentService、RAID通報サービス、サーバ診断カルテ、装置情報収集ユーティリティ

例：Severity：Caution、Event Class：0xA(UEFI)、Event Code：0x333または0x338
Description：%1 RESTful API Error - Unable to communicate with %2 FW.
BIOS configuration resources may not be up-to-date.

● **iLO WebインターフェイスのAgentless Management Service (AMS)のステータスについて**

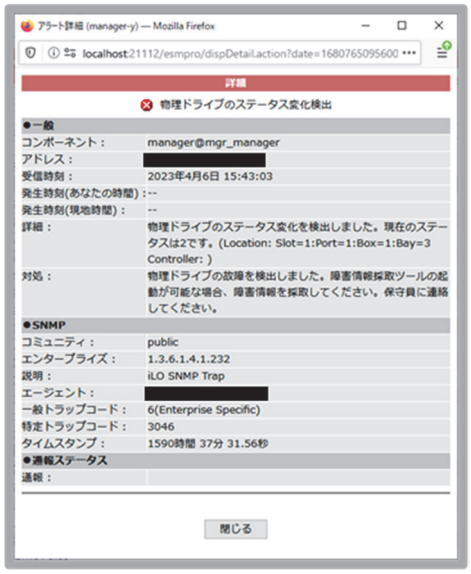
iLO Web インターフェイスの「System Information > Summary > Subsystems and Devices」の Agentless Management Service (AMS)のステータスにおいて、ステータスが不明(または利用不可能)(※)と表示されている場合は、iLO の再起動を実施してください。またその後 10 分程度経過してから、以下の Agentless Management Service (AMS)の再起動方法に従って、Agentless Management Service (AMS)を再起動してください。

＜Agentless Management Service (AMS)の再起動方法＞
「Windows の管理ツール > サービス」で「Agentless Management Service」を右クリックし、再起動してください。

※ Agentless Management Service (AMS)のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Web インターフェイスの「System Information > Storage」や「System Information > Network」の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。また、この影響により、ESMPRO/ServerManager による IML 監視やエクスプレス通報などが正しく行えない可能性があります。

● **物理ドライブの通報に関する注意事項**

論理ドライブを構成した環境で物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障に関するエクスプレス通報は通知されません。
また、ESMPRO/ServerManagerのアラートビューアでは「物理ドライブのステータス変化検出」が通知され、詳細欄のステータス値は「2」が表示されます。
いずれも、iLO6の仕様による動作です。
※ ステータス値の「2」は正常(OK)、「3」は異常(Failed)を示します。



● **仮想シリアルコンソールに関する注意事項**

iLO6ファームウェアバージョン1.64の適用装置：
仮想シリアルポートログover CLI設定を有効にした後、SMASH-CLPからテキストベースの仮想シリアルコンソールを起動しても何も表示されません。

・ 仮想シリアルコンソール起動コマンド
vspまたはstart /system1/oemNEC_vsp1

仮想シリアルポートログover CLIを無効から有効に設定変更後、仮想シリアルコンソールに何も表示されなくなった場合、BMC構成ユーティリティより[工場出荷時のデフォルトにセット]を実施してください。

iLO6ファームウェアバージョン1.70以降の適用装置：
SMASH-CLPからテキストベースの仮想シリアルコンソール表示のためのvspコマンドを実行すると、”VSP is disabled”が表示され、シリアルコンソール出力の表示が行われません。

vspコマンドの代わりに以下のいずれかの方法で仮想シリアルコンソール表示を実施してください。

・ SMASH-CLPを使用する場合
start /system1/oemNEC_vsp1
または
cd /system1/oemNEC_vsp1
start

・ IPMI I/Fを使用する場合(ipmitoolでの使用例)
ipmitool -I lanplus -C 17 -H <iLO IP address> -p 623 -U <iLO Account> -P <iLO Account Password> sol activate

● **LLDPに関する注意事項**

iLO Web インターフェイスの「iLO Dedicated Network Port > LLDP」において、「Link Layer Discovery Protocol」を有効に設定すると、同一ネットワーク上に LLDP サポート機器が存在せず隣接機器のデバイス情報の取得ができない場合に「LLDP 情報が見つかりません」と表示され、これ以降「Link Layer Discovery Protocol」の有効/無効の切り替えができなくなります。

万が一、設定変更ができなくなった場合には、「BMC Configuration Utility > Set to factory defaults」を実行し、工場出荷時のデフォルト設定に戻すことで解消できます。

● RESTful APIでのRAIDコントローラ情報に関する注意事項

iLO6ファームウェアバージョン1.64以降の適用装置：
RAIDコントローラに特定のファームウェアが適用されている場合、iLO RESTful APIで下記のRedfishリソース情報を取得すると、返却されるJSONデータ中のPCIeFunctions配列内の@odata.idに正しいリンク情報の代わりにエラーを示す「F0」が表示され、RAIDコントローラに関するPCI機能の参照ができません。
RAIDコントローラのPCI機能を確認したい場合は、Smart Storage AdministratorからPCI機能を参照してください。

・ 対象RAIDファームウェアバージョン：7.11 / 7.43

・ 対象Redfishリソース
/redfish/v1/Systems/1/Storage/{controller ID}/Controllers/0

・ 返却されるJSONデータ(該当箇所)

```
"PCIeFunctions": [
  {
    "@odata.id": "F0"
  }
      ],
```

● Server Platform Services (SPS)ファームウェアに関する注意事項

iLO6ファームウェアバージョン1.70未満の適用装置では、Server Platform Services (SPS)ファームウェアバージョン6.1.4.204.0を適用すると、iLO Webインターフェイスの「Firmware & OS Software > Firmware」でのSPSファームウェアバージョンが正しく表示されないことがあります。

iLO6ファームウェアバージョン1.70以降においては正しく表示されますので、アップデートを推奨します。
また、システムユーティリティのFirmware Informationメニュー(※)では、正しいSPSファームウェアバージョンを確認できます。

(※) 「System Utilities > System Information > Firmware Information」

● サーバーブート順序設定の注意事項

iLO6ファームウェアバージョン1.74以下の装置では、iLO Webインターフェイスの「管理 > ブート順序」の[サーバーブート順序]からブート順序の設定をしないでください。
[サーバーブート順序]からブート順序を設定した場合、再起動や電源オフ/オン後に以下の問題が発生することがあります。

・iLO Webインターフェイスで設定した[サーバーブート順序]の設定が保持されない。
・システムユーティリティで無効に設定していたブートデバイスが予期せず有効に設定され、[サーバーブート順序]に表示される。
・[サーバーブート順序]がデフォルト値に戻る、または予期せぬ設定に変更される。

ブート順序の設定は、RBSUの「Boot Options > UEFI Boot Settings > UEFI Boot Order」で実施してください。

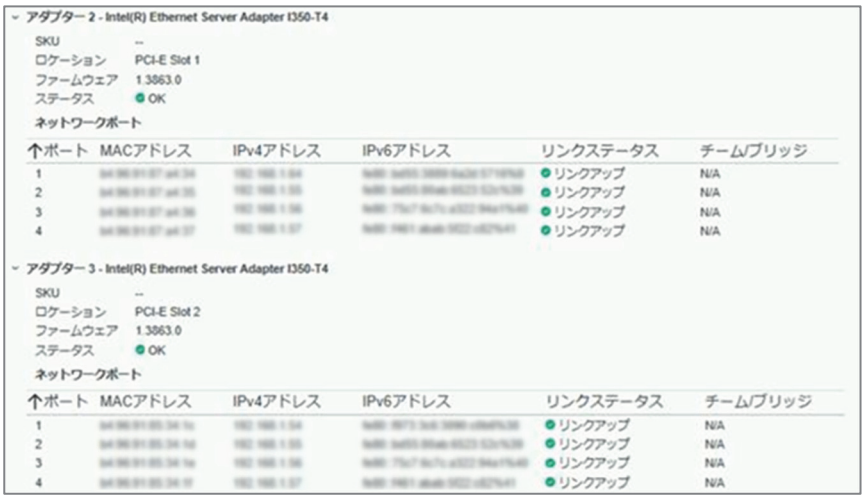
● ネットワーク情報表示に関する注意事項

・ iLO6ファームウェアバージョン1.74以降の適用装置では、iLO Webインターフェイスの「システム情報 > ネットワーク」において、ネットワークポート情報が表示されない場合があります。
Windows Server OSのツール(ipconfigなど)を使用して確認してください。

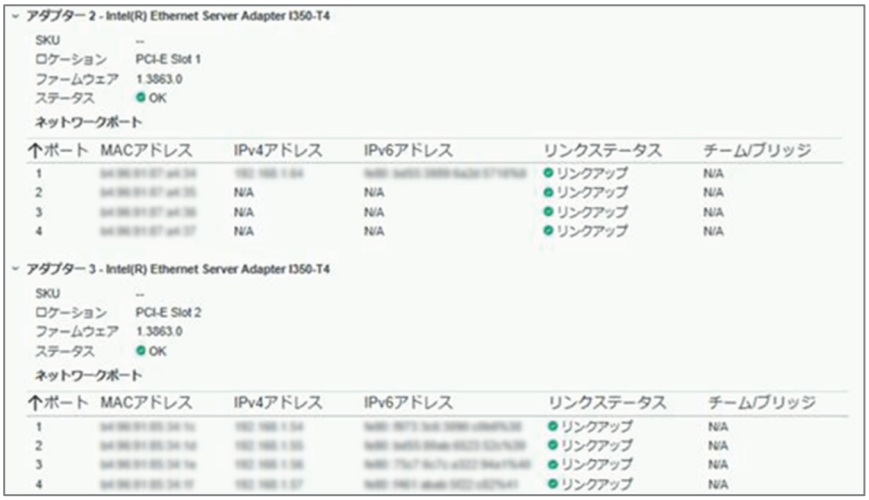
正常時の表示例

現象発生時の表示例

・ iLO6ファームウェアバージョン1.74以降の適用装置では、iLO Webインターフェイスの「システム情報 > ネットワーク」において、PCIスロットに同一型番のNICが複数台搭載された場合、ネットワークポート情報内のIPv4およびIPv6アドレスに「N/A」が表示される場合があります。
Windows Server OSのツール(ipconfigなど)を使用して確認してください。



正常時の表示例



現象発生時の表示例

5) OSに関する注意事項

● **サーバーマネージャー上の赤い警告表示について**

本製品の出荷時状態で、OS 起動後にサーバーマネージャーを表示すると、サービスに関する警告が赤色で表示されます。
警告の内容が、Microsoft Edge Update Service (edgeupdate)サービスに関するものである場合、実害はありませんので、無視いただいて問題ありません。
本警告の詳細については、下記 URL のマイクロソフト社の情報を参照してください。

Windows Server 2022 において、サーバーマネージャー上に edgeupdate サービスに関する警告が表示される
https://jpwinsup.github.io/blog/2021/09/29/UserInterfaceAndApps/SrvMngWithEdge/

6) 全般の機能に関する注意事項

● **N8103-184/E184 SASコントローラご使用時の注意事項**

N8103-184/E184 SASコントローラを使用する場合、iLO Webインターフェイスの「System Information > Storage > Storage Controller」のStatusが「不明(Unknown)」と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● **オンボードSATA (AHCIモード)ご使用時の注意事項**

オンボードSATA (AHCIモード)を使用するSATA HDD構成でシステムクラッシュが発生した際、OS自動再起動を設定しているにもかかわらず、まれにOSが再起動しない場合があります。その場合、iLO Webインターフェイスで電源ボタンをクリックし、プルダウンメニューの最下段の「リセット」をクリックすることによりOSが起動します。

● **「Halted system due to SPDM (Security Protocol and Data Model) component authentication failure」というメッセージが表示された場合の注意事項**

本装置の再起動を実行した場合、まれに以下に例示するSPDM関連のエラーが発生して、OSが起動しないことや、電源投入時セルフテスト(POST)が完了しないことがあります。

例：1. Halted system due to SPDM (Security Protocol and Data Model) component authentication failure
2. System halted due to Security Protocol and Data Model (SPDM) component authentication failure

この画面で停止した場合は以下のいずれかの方法で本装置を再起動してください。

・iLO Webインターフェイスより「Power & Thermal > Server Power > Virtual Power Button」の[Press and Hold]をクリック後、[System Power]が[OFF]になっていることを確認し、[Virtual Power Button]の[Momentary Press]をクリックしてください。

・本装置のPOWERスイッチを4秒以上押し続けて、POWERランプ消灯を確認してから、再度POWERスイッチを押してください。

```
Halted system due to SPDM (Security Protocol and Data Model)
component authentication failure.
See IML and Security Log for details.
_
```

● **PCIカードの取り付けに関する注意事項**

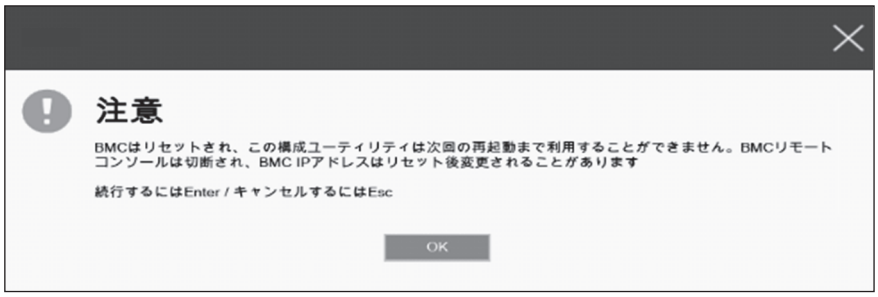
PCIカードを本装置に取り付ける際は、PCIスロットに差し込んだ後、PCIカード、またはライザーカードに付属のネジを用いてライザーカードに固定してください。
なお、工場出荷時に搭載されているPCIカードはネジで固定しています。

● **システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項**

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の①のポップアップが表示された場合は②以降の手順を厳守してください。
注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization - Start」のメッセージでPOST停止、あるいは対象サーバーに記録されているSerial Number、Product IDなどが消失することがあります。
「Memory Initialization - Start」のメッセージでPOST停止した場合は、システムメンテナンススイッチSW6にて、システム設定をデフォルトに戻し正常に起動することを確認してください。
SW6の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4システム設定情報の初期化」>「7.4.2システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。
Serial Number、Product IDなどが消失した場合の復旧方法は、メンテナンスガイドの「5.トラブルシューティング」>「5.11補足事項」>「Serial Number、Product IDが消失してしまった」の項目を参照してください。

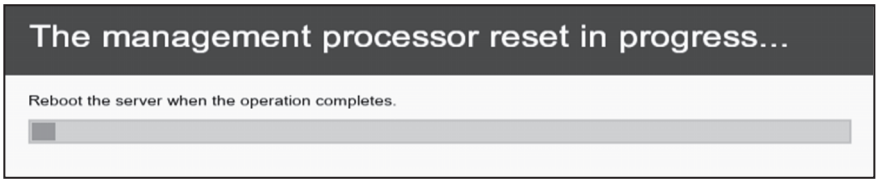
① システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLOの再起動を行うために、次のWarning(注意)ポップアップが表示されます。

英語表示の場合



日本語表示の場合

② 「OK」を押して進めます。
③ iLOの再起動が開始され、次のプログレスバーが表示されます。
プログレスバーが表示されている状態で何も操作は行わず、必ず3分以上お待ちください。
もし、3分以内にプログレスバーが終了した場合においても、そのまま3分以上お待ちください。



英語表示の場合

日本語表示の場合

④ 3分以上経過後、以下を確認します。

A. 本体装置操作時

対象サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。

・ iLOが再起動中　　：ステータスランプが緑色で点滅（毎秒1回）

・ iLOの再起動が完了し正常動作：ステータスランプが緑色で点灯

B. リモート(iLO Webインターフェイス)操作時

対象サーバーにログイン画面が表示されていることを確認してください。

⑤ ④において、iLOの再起動の完了を確認後、<ESC>キーを複数回押して、システムユーティリティ画面に戻ります。

⑥ システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して対象サーバーを再起動します。

● **サーバ診断カルテについて**

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月ごとに稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。
サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

サーバ診断カルテの最新の情報および注意事項、制限事項については下記の Web サイトを確認してください。
サーバ診断カルテは最新版を使用することを推奨します。

NEC サポートポータル（Windows 対応版）
https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=9010106809

A) ファームウェア更新に伴う変更点

(1) UMONITORオプション

システム ROM バージョン2.60以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Processor Options」メニュー配下に「UMONITOR」オプションが追加されます。

オプション	パラメーター	説明
UMONITOR (注1)	Enabled [Disabled]	このオプションを使用して、CPL3ソフトウェアがUMONITOR/UMWAIT命令を使用するように構成します。

[　　]：出荷時の設定

(注1)：システム ROM バージョン2.60以降で追加されるオプションです。

(2) Maximum Memory Bus Frequencyオプション

システム ROM バージョン2.16以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options」メニュー配下の「Maximum Memory Bus Frequency」オプションに「5600 MHz」と「5200 MHz」のパラメーターが追加されます。

オプション	パラメーター	説明
Maximum Memory Bus Frequency	[Auto] 5600 MHz (注1) 5200 MHz (注1) 4800 MHz 4400 MHz 4000 MHz 3600 MHz 3200 MHz	搭載されているプロセッサーとDIMM構成でサポートされる最大速度より低い速度でメモリを実行するように、メモリシステムを設定します。本オプションを「Auto」に設定すると、サポートされる最高速度でメモリが動作するようにシステムが設定されます。

[　　]：出荷時の設定

(注1)：システム ROM バージョン2.16以降で追加されるパラメーターです。

(3) Filter Non-bootable Drivesオプション

システムROMバージョン2.16以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options」メニュー配下に「Filter Non-bootable Drives」オプションが追加されます。

オプション	パラメーター	説明
Filter Non-bootable Drives (注1)	[Auto] Enabled Disabled	「Enabled」に設定した場合、システムは、起動不可な固定ドライブのブートオプションの作成を抑制します。 「Auto」に設定した場合、ブートオプションの数が過剰になると、予期しない副作用を避けるため、システムは、起動不可な固定ドライブのブートオプションの作成を抑制します。

[　　]：出荷時の設定

(注1)：システムROMバージョン2.16以降で追加されるオプションです。

(4) NVMe-oF Configurationオプション

システムROMバージョン2.16以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Network Options」メニュー配下に「NVMe-oF Configuration」オプションが追加されますが、
本機ではサポートされません。

(5) NVMe-oF Software Initiatorオプション

システムROMバージョン2.16以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Network Options > Network Boot Options」メニュー配下に「NVMe-oF Software Initiator」オプションが追加されますが、本機ではサポートされません。

(6) Uncore Frequency RAPLオプション、CPU C1 Auto Demotionオプション、CPU C1 Auto Undemotionオプション

システムROMバージョン2.60以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options」メニュー配下に「Uncore Frequency RAPL」オプション、「CPU C1 Auto Demotion」オプション、「CPU C1 Auto Undemotion」オプションが追加されます。

オプション	パラメーター	説明
Uncore Frequency RAPL (注1)	[Enabled] Disabled	このオプションは、実行平均電力制限(RAPL)バランサーを有効にするかどうかを制御します。このオプションを有効に設定すると、アンコアの電力バジェットがアクティブになります。
CPU C1 Auto Demotion (注1)	Enabled [Disabled]	CPUが自動的にC1に降格できるようにします。
CPU C1 Auto Undemotion (注1)	Enabled [Disabled]	CPUがC1から自動的に降格解除できるようにします。

[　　]：出荷時の設定

(注1)：システムROMバージョン2.60以降で追加されるオプションです。

(7) Trust Domain Extension (TDX)オプション

システムROMバージョン2.16以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Intel Security Options」メニュー配下に「Trust Domain Extension (TDX)」オプションと「TDX Secure Arbitration Mode Loader (SEAM Loader)」オプションが追加されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

オプション	パラメーター	説明
Trust Domain Extension (TDX) (注1)	[Disabled] Enabled	Trust Domain Extension (TDX)の有効／無効を設定します。 本機ではサポートされません。
TDX Secure Arbitration Mode Loader (SEAM Loader) (注1)	[Disabled] Enabled	TDX Secure Arbitration Mode Loader (SEAM Loader)の有効／無効を設定します。 本機ではサポートされません。

[　　]：出荷時の設定

(注1)：システムROMバージョン2.16以降で追加されるオプションです。

(8) PCIe Data Link Featureオプション

システムROMバージョン2.16以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > Advanced PCIe Configuration」メニュー配下に「PCIe Data Link Feature」メニューが追加されます。

(a) PCIe Slot XX Data Link Feature Exchangeオプション

システムROMバージョン2.16以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > Advanced PCIe Configuration > PCIe Data Link Feature」メニュー配下に「PCIe Slot XX Data Link Feature Exchange」オプションが追加されます。

オプション	パラメーター	説明
PCIe Slot XX Data Link Feature Exchange (注1)	[Enabled] Disabled	指定されたスロットのData Link Feature Capabilities (DLFCAP)レジスタでデータリンク機能ネゴシエーションを有効／無効にします。 XX: 1/2/3... (CPU数やライザカード種類に応じて表示が変わります。)

[　　]：出荷時の設定

(注1)：システムROMバージョン2.16以降で追加されるオプションです。

■商標について

EXPRESSBUILDER®、ESMPRO®は日本電気株式会社の登録商標です。
Microsoft®、Windows®、Windows Server®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Intel®、Xeon®は米国Intel Corporationの登録商標です。
その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がある場合は、下記のファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター
ＴＥＬ　　：0120-5800-72
受付時間　：9:00～12:00　13:00～17:00　月曜日～金曜日(祝日を除く)
※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

* CBZ-057873-301-07 *

2026年9月 第8版